

# 地域の危険度マップ 建物の全壊率

(布田川・日奈久断層の活動により、マグニチュード7.9の地震が発生した場合、または八代市の直下でマグニチュード6.9の地震(\*)が発生した場合に予想される最大の揺れを想定) (\*) 全国どこでも起こりうる直下の地震として、未知の断層が活動したと仮定

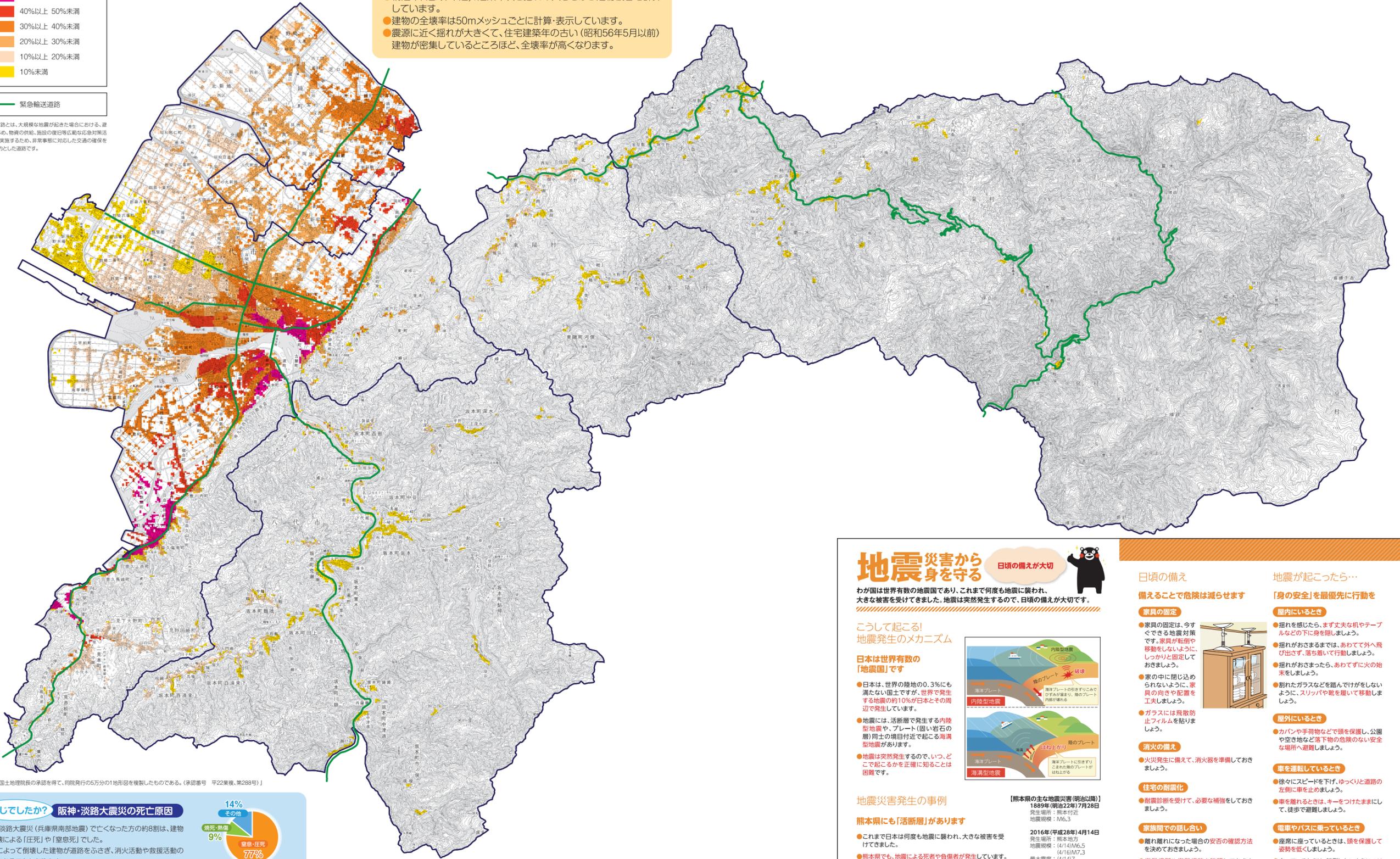


緊急輸送道路とは、大規模な地震が起きた場合における、避難・救助をはじめ、物資の供給、施設の復旧等広範な応急対策活動を広域的に実施するため、非常事態に対応した交通の確保を図ることを目的とした道路です。

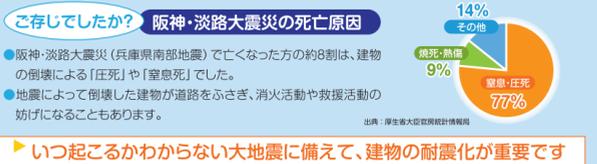


「地域の危険度マップ」とは、大規模な地震が発生した場合に全壊する建物の割合(全壊率)を、地域ごとに建物の構造、建築年次などを基に算定した値を危険度として表した地図です。

- 構造(木造/非木造)、建築年次と揺れの大きさから建物被害を計算しています。
- 建物の全壊率は50mメッシュごとに計算・表示しています。
- 震源に近く揺れが大きくて、住宅建築年の古い(昭和56年5月以前)建物が密集しているところほど、全壊率が高くなります。



【この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平22第報、第288号)】



**いつ起こるか分からない大地震に備えて、建物の耐震化が重要です**



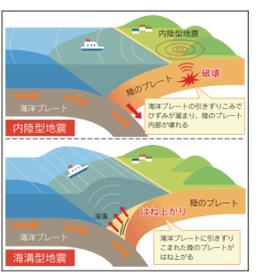
## 地震災害から身を守る 日頃の備えが大切

わが国は世界有数の地震国であり、これまで何度も地震に襲われ、大きな被害を受けてきました。地震は突然発生するので、日頃の備えが大切です。

### こうして起こる! 地震発生メカニズム

### 日本は世界有数の「地震国」です

- 日本は、世界の陸地の0.3%にも満たない国土ですが、世界で発生する地震の約10%が日本とその周辺で発生しています。
- 地震には、活断層で発生する内陸型地震や、プレート(固い岩石の層)同士の境目付近で起こる海溝型地震があります。
- 地震は突然発生するので、いつ、どこで起こるか正確に知ることは困難です。



### 地震災害発生事例

- 熊本県にも「活断層」があります**
- これまで日本は何度も地震に襲われ、大きな被害を受けてきました。
  - 熊本県でも、地震による死者や負傷者が発生しています。
  - これまで繰り返し地震を起こし、今後も地震を起こすと考えられている断層を「活断層」といいます。
  - この活断層は熊本県にもあり、備えが必要です。

**【熊本県の主な地震災害(明治以降)】**

1889年(明治22年)7月28日	発生場所: 熊本地方	地震規模: (4/14)M6.5	最大震度: (4/16)M7.3
2016年(平成28年)4月14日	発生場所: 熊本地方	地震規模: (4/14)M6.5	最大震度: (4/16)7

### 日頃の備え

#### 備えることで危険は減らせます

#### 家具の固定

- 家具の固定は、今すぐできる地震対策です。家具が転倒や移動をしないように、しっかりと固定しておきましょう。
- 家の中に押し込まれないように、家具の向きや配置を工夫しましょう。
- ガラスには飛散防止フィルムを貼りましょう。



#### 消火の備え

- 火災発生に備えて、消火器を準備しておきましょう。

#### 住宅の耐震化

- 耐震診断を受けて、必要な補強をしましょう。

### 地震が起こったら...

#### 「身の安全」を最優先に行動を

#### 屋内にいるとき

- 揺れを感じたら、まず丈夫な机やテーブルなどの下に身を隠しましょう。
- 揺れがおさまるまでは、あわてて外へ飛び出さず、落ち着いて行動しましょう。
- 揺れがおさまったら、あわてずに火の始末をしましょう。
- 割れたガラスなどを踏んで怪我をしないように、スリッパや靴を履いて移動しましょう。

#### 屋外にいるとき

- カバンや手荷物などで頭を保護し、公園や空き地など落下物の危険のない安全な場所へ避難しましょう。

#### 車を運転しているとき

- 徐々にスピードを下げ、ゆっくりと道路の左側に車を止めましょう。
- 車を離れるときは、キーをつけたままにして、徒歩で避難しましょう。

#### 電車やバスに乗っているとき

- 座席に座っているときは、頭を保護して姿勢を低くしましょう。
- 立っているときは、転倒しないようにつり革や手すりにつかまりましょう。

※本記事は、平成28年度発行の熊本県防災ハンドブック(P4、P5)より転載しています。